

考える



『こちら、^{おきなわちゅ うみ}沖縄美ら海^{すいぞくかん}水族館動物健康管理室。』
 『世界一の治療をチームで目指す』
 岩貞るみこ/文
 サケジュンスケ/イラスト
 講談社

おきなわ ちゅ うみすいぞくかん すいぞくかん
 沖縄の美ら海水族館には、水族館に在るすべての生き物の健康を管理する「動物健康管理室」がある。スタッフたちがチームになり、生き物たちの命を守っているのだ。



『宇宙^{うちゅう}でウンチ みんなの知らない宇宙トイレのひみつ』
 A.ボンドー=ストーン、C.初木/作
 L.ケセス/絵
 千葉茂樹/訳
 あすなろ書房

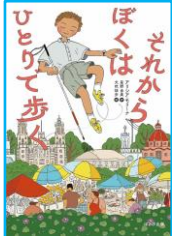
もし宇宙でウンチをしたくなったら、どうすればいいの？重力も下水管もない宇宙船に、トイレを作るのは大変！科学者たちはこの問題をどうやって乗り越えたのだろうか。



『わたしのカレーな夏休み』
 谷口雅美/著
 KOUME/画
 講談社

カレーが大好きなハルカ。夏休みを利用して、カレー屋さんをやっているおじさんのところへ弟子入りにやってきた。そんな時、イベントがあることを知り、オリジナルのカレーを考え始めた。

家族



『それからぼくはひとりで歩く』
 アリシア・モーナ/作
 星野由美/訳
 犬吠徒歩/絵
 ほるぷ出版

ハイメは目が見えない男の子。ある日、友だちのパウリーナを家まで送り、いつもとはちがうバスに乗ってしまう。不安に思いながらも、そこから近い兄の通う中学校を目指すことにした。



『ぼくの中にある光』
 ガチャ・ベレン/作
 原田勝/訳
 岩波書店

両親の都合でとつぜん家族になったゾフィアとトム。生活が一変してしまい、とまどう2人はおたがいをりかいできず、もやもやがたまっていく。そんな時、2人に妹ができた。



『再会の日に』
 中山聖子/作
 岩崎書店

陽架はクラスメートの通うじゅくに、べつべつにくらす妹がいるかもしれないことを知った。同じころ、おばの病気が発覚する。妹を連れてくれば元気になると思い、陽架はないしよで会いに行くことにした。

小学 5・6年生

あつまれ あきし 本

足立区立図書館

新たな発見や楽しさに出会おう！

ふだんは読まないジャンルの本にチャレンジすると、
 きっと新たな発見や楽しさに出会えるよ！



チャレンジ

『ブルーラインから、はるか』

林けんじろう/作
 坂内拓/絵
 講談社

おれは風馬と図書館で顔見知りになった。あまりいい出会い方ではなかったが、とつぜん風馬から自由研究にさそわれる。それは、しまなみ海道を自転車^{ふうま}で走りきることだった。あいつはどうしてこんな計画を立てたのだろうか。

→ あだち電子図書館で読める本

→ 読みやすい本

© Yo & Motoko

あだち電子図書館
 くわしくはコチラ





友だち



『レベッカの見上げた空』

マシュー・フォックス/作
堀川志野舞/訳
静山社



レベッカは、雪の上で天使のようなかたちを見つけた。だれかがねそべて作ったとしても、そこに行くための足あとがどこにもない。いったいどうやって作ったんだろう。



『トクベツキューカ、はじめました！』

清水晴木/作
いつか/絵
岩崎書店

ならちば習千葉小学校には、1年に1日だけ好きな日に学校を休んでいい「トクベツキューカ」がある。この特別な休みをきっかけに、まよいやなやみから成長していく5人の物語。



『ダンス★フレンド』

カミラ・チェスター/作
榎田理絵/訳
早川世詩男/絵
小峰書店

家族以外と話せない「かんもく症^{しょう}」のレオは、ダンスが大好き。引っこしてきたリカもダンスが好きだと知り、仲良くなる。やっとできた友だちに自分のことを知ってほしいと考えたレオは、手紙を書くことにする。



『復活！まぼろしの小瀬菜だいこん』

野泉マヤ/文
丹地陽子/絵
文研出版

ママのふるさとの小瀬にやってきた鈴^{すず}。散歩中に見つけた花畑で転んでしまい、こわいおじさんにおこられる。実はそこは、もう作られていないと思われていた小瀬菜だいこんの畑だった。

チャレンジ



『おこなわと跳びません』

赤羽じゅんこ/作
マコワイ/絵
静山社



ほしかわ星川小学校で長く続いているおこなわ大会。左足にハンディのある双葉^{ふたば}が「おこなわ大会は出ません」と発言した。このことをきっかけにクラスのみんなで新しいルールについて話し合う。



『探検家』

キャサリン・ランゲル/著
越智典子/訳
ゴブリン書房

飛行機が落ち、アマゾンのジャングルに取り残された4人の子どもたち。果たして4人は、ジャングルを生きぬき、本来の目的地であるマナウスにたどり着くことができるのか。

知る



『わたしはみつけた！ 赤ちゃんの命をすくう発明』

バージニア・アプガー博士の
キャリア・A・ピ・アソ/文
ナジー・カーペンター/絵
さくまゆみこ/訳
子どもの未来社

ますいはい麻酔科医のアプガー博士は、赤ちゃんの健康をテストする「アプガー・スコア」を開発しました。世界中で使われ、たくさんの赤ちゃんの命をすくうこのテストは、どのように考えられたのでしょうか。



『ミツツボアリをもとめて アボリジニ家族との旅』

今森光彦/著
偕成社

どこまでも広がるオーストラリアの大地。そこに住むアボリジニの人々にとって、ミツツボアリは大好きなおやつだという。ミツツボアリはいったいどこにいて、どうやってさがし出せばいいのだろう。



『みんなみんな とももすてき』

バティスト・ポーリーウ/文
フィン・レン/絵
ひがきゆみ/訳
ひさかたチャイルド



じいじの顔には大きなきずがある。ある日、このきずが子どものころにできた話をしてくれた。これは“体の物語”で、みんなそれぞれあるんだって。みんなどんな物語を持っているのか見てみよう。



『ハミングベアのくる村』

キャサリン・アップルゲイト/作
尾高薫/訳
偕成社

ウイロディーンの住む村には秋に、ハミングベアという不思議な生き物がわたってきて、美しい巣を作る。年々ハミングベアの数が増えていく理由を知ったウイロディーンは、村を守るために立ち上がる。

仕事



『巨石運搬！』

海をこえて大阪城へ』

鎌田歩/作
アリヌ館

おおさかじょう大阪城の石がきに使われている大きな石。実は瀬戸内海の島から、船で大阪まで運ばれてきた。人の何倍もある大きな石をいったいどうやって運んできたのだろう。



『おしごと道具 名前じてん』

菅祐美子/著
東京書店



身の回りには、見たことはあるけど名前を知らない道具がある。例えば、ラーメン屋さんがめんの湯切りに使うのは「てぼ」。あなたは、この本に出てくる道具の名前をいくつ答えられるかな？